

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

他年度の評価結果

[平成20年度評価結果](#)

[平成19年度評価結果](#)

[平成18年度評価結果](#)

福祉サービス第三者評価情報 > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > 評価結果ダイジェスト

評価結果ダイジェスト



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼全体の評価講評

▼サービス分析結果

▼利用者調査結果

▼事業者のコメント

平成17年度

知的障害者通所授産施設[経過措置]

事業所名称	未来工房にじ
評価機関名称	特定非営利活動法人 NPO人材開発機構
評価者	修了者No.H0202080 修了者No.H0402064 修了者No.H0306001
評価実施期間	2005年11月25日～2006年3月21日

全体の評価講評

▶ [詳細はこちらから](#)



特に良いと思う点

- ・ 自立のベースとなるサービス基盤の多角的展開
- ・ 個別ニーズに対応した多彩な授産プログラム
- ・ オープンな人事考課制度の実施



さらなる改善が望まれる点

- ・ 加速的事業展開にも対応できる就業環境づくり
- ・ 将来の「第二未来工房にじ」の開設にともなう販売網の強化
- ・ 併設の入所更生施設「大沢にじの里」との連携の強化

[このページの一番上へ](#)

サービス分析結果

▶ [詳細はこちらから](#)

サービスの実施項目

サービスの実施	評点
1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している	A ⁺
【講評】 続きを見る	
・ 社会福祉法人にじの会として、同じ建物で入所更生施設と通所授産施設を開設している。... ・ 日々の日中活動支援は個別支援計画により行われ、利用者の特性に応じてコミュニケーション... ・ 利用者の作業は安全に注意しながら行い、作業終了後1日の作業の内容や連絡として「帰...	
2. 個別の支援計画に基づいて就労・日中活動等に関するさまざまな支援を行っている	A
【講評】 続きを見る	
・ 個別の支援計画に基づき、利用者や保護者の希望・意見を聞いて個々の支援を決めている... ・ 日中活動の就労の作業工賃は作業工賃支払規定により明確にされており、作業に参加した... ・ 全部で9種ある作業に本人の希望や特性を生かしたつもりでも、実際に作業すると合わな...	
3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している	A
【講評】 続きを見る	
・ 日々の食材は無農薬野菜を使用し、利用者の栄養バランスを考えたメニューの提供をして... ・ 食堂は入所、通所利用者共用なので、昼食時はグループに分けたり、時間差を設けたり工... ・ 厨房業務は業者委託で行っており、施設の栄養士が献立表を作成している。職員の検食、...	
4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている	A
【講評】 続きを見る	
・ 利用者の家庭での様子や健康状態などは連絡帳で確認している。日中活動を行う時には利... ・ 毎月実施される安全委員会では、安全活動の月間目標を定めて、安全への意識付けとキャ... ・ 日常生活で自立に必要な動作が出来るように各種マニュアルが支援ツールとして準備され...	
5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている	A
【講評】 続きを見る	

- ・医療機関（近隣の大学、嘱託医3名）との連携は良く取れており、2名の看護師と嘱託医...
- ・日々の服薬管理は看護師が行い、昼食支援の際に与薬担当スタッフが配薬し、飲んだこと...
- ・利用者の心身の健康増進を目的とした「運動」、「音楽」プログラムを専任スタッフによ...

6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている

A

【講評】[続きを見る](#)

- ・設計の段階で障害者を持つ親が携わり、採光、照明、換気、段差、廊下の広さ、間取り、...
- ・朝の会、帰りの会、毎月の利用者会議で問題点を話し合ったり、約束事を確認している。...

7. 施設と家族等との交流・連携を図っている

A

【講評】[続きを見る](#)

- ・保護者等との交流、懇談、相談等は入所をはじめ、制度の変更や施設の事業計画の公表、...
- ・3ヶ月ごとに実施される施設家族連絡会において、写真やビデオを使って日中活動の様子...
- ・7月末の夏祭り、11月のにじの会祭り、12月のクリスマス会、1月の成人式、2月の...

8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

A

【講評】[続きを見る](#)

- ・開設以来、地域への協力、各種行事には積極的に参加し、三鷹市、調布市住民との交流に...
- ・施設に併設されたお洒落なショップ「オー・ソレ・ミオ」では、授産で生産されたパンや...

評点の内容
▶ [詳細はこちらから](#)

[このページの一番上へ](#)

利用者調査結果

▶ [詳細はこちらから](#)

有効回答者数/利用者総数
13/23

1. 施設の中は安全に動けるようになっていきますか

はい	12人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

2. 食事はおいしいですか

はい	13人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

3. 仕事や活動は楽しいですか

はい	13人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

4. 職員はみんな同じようにあなたに対応してくれますか

はい	13人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

5. 職員は、丁寧（乱暴な言葉を使ったり、命令したり、呼び捨てにしない）に接してくれますか

はい	11人	どちらともいえない	0人	いいえ	2人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

6. あなたの気持ちをわかってくれる（相談できる）職員がいますか

はい	11人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	2人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

7. あなたが困ったとき、施設の職員は助けてくれますか

はい	12人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

8. 困ったことを外の人（第三者委員など）にも相談できますか

はい	7人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	5人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

9. 工賃・給料の支払いのしくみは、わかりやすく説明されていますか

はい	9人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	4人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

10. 施設に、あなたが来る事を喜んでくれる仲間がいますか

はい	13人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

11. あなたの目標・計画について、いっしょに考えわかりやすく説明してくれましたか

はい	8人	どちらともいえない	0人	いいえ	2人	無回答・非該当	3人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

12. 【過去1年以内に利用を開始したと答えた方に】利用する前に、施設での生活や支援内容など、知りたいことについてわかりやすい説明がありましたか

はい	0人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

13.【過去1年以内に利用を開始したと答えた方に】施設のサービスなどの考え方を知る機会（説明、掲示など）がありましたか

はい	0人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

14.【過去1年以内に利用を開始したと答えた方に】施設の説明を聞いて、自分で施設を利用することを決めましたか

はい	0人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

15.あなたは不満や要望を職員に気軽に話すことができますか

はい	11人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

16.職員は不満や要望に対してきちんと対応してくれていますか

はい	11人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

[このページの一番上へ](#)

事業者のコメント

* 以下の項目は事業者によって、自ら更新される情報です。

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評価の見方

他年度の評価結果

平成20年度評価結果

平成19年度評価結果

平成18年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 全体の評価講評

全体の評価講評

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼全体の評価講評 ▼コメント

平成17年度

知的障害者通所授産施設[経過措置]

[次の評価結果を見る>>](#)

事業所名称	未来工房にじ
評価機関名称	特定非営利活動法人 NPO人材開発機構
評価者	修了者No.H0202080 修了者No.H0402064 修了者No.H0306001
評価実施期間	2005年11月25日～2006年3月21日

全体の評価講評

💡特に良いと思う点

・ 自立のベースとなるサービス基盤の多角的展開

知的障害者の地域生活の支援等に際して、重度障害者の意思、思い、ニーズをどのように把握していくかということについて、コミュニケーション能力向上を重点的に中・長期にわたりプロジェクトを組んで推進している。また、施設としては環境と事業の特徴を分析して3カ年計画を進めてきたが、国の施策の脱入所更正施設とは相反するものがある。障害者は地域の中で生活するためにはグループホームで生活の場を築き、入所施設でサポートする必要があるとの視野にたって計画している。今年度は、グループホーム等、新たな授産施設を立ち上げた。

・ 個別ニーズに対応した多彩な授産プログラム

授産施設の「未来工房にじ」にはパン工房、豆富(とうふ)工房、食品工房、手づくり工房、織工房、紙工房、園芸・清掃グループ、外作業グループ、室内清掃グループ等の多彩な事業が利用者の適性に配慮して行われている。施設に併設されたお洒落なショップ「オー・ソレ・ミオ」では授産で生産されたパンやジャム、豆腐などを販売するとともに、地域住民の憩いの場所として喫茶も開業している。利用者也販売することで地域住民との交流の機会にもなっている。なお、絵や写真を活用した視覚的コミュニケーション手法で授産作業を分かりやすく伝えている。

・ オープンな人事考課制度の実施

職員の育成・報酬・就業状況等、職員の抱えている問題を把握するために人事考課を年2回、自己申告を年1回行っている。仕事に対しての自己評価のための基準評価表があり、自己評価と考課者の間で評価が食い違った場合は、上司評価は当人にもオープンにされ、二次考査として調整をはかることができる。自己申告の際には面接を希望する上司を選ぶことができるという斬新な制度を取っている。このオープンな人事考課制度実施により、管理職の器量が問題としてクローズアップされた。この制度が管理職の成長につながるものと期待される。

✔さらなる改善が望まれる点

・ 加速的事業展開にも対応できる就業環境づくり

開所わずか3年間の中で当法人は急激な事業を展開してきた。この状況に対応するため、一人ひとりの職員へのプレッシャーが強まっていることは事実である。このことにより利用者へのサービス提供に支障をあたえかねない状況にもある。今後は職員のストレスマネジメントにも考慮した就業環境づくりへの配慮が望まれる。

・ 将来の「第二未来工房にじ」の開設にともなう販売網の強化

今年から「未来工房にじ分場」は「にじアート」として、織工房と紙工房の日中活動を開始した。来年は「第二未来工房にじ」の開設を予定しており、パンなどの食品の生産販売を計画している。民間の業者との販売競争も激化も予想される中で、外部出店など販売網の強化が急がれる。

・ 併設の入所更生施設「大沢にじの里」との連携の強化

併設の入所施設「大沢にじの里」の利用者は日中活動として、各種授産活動に参加している。授産活動をスムーズに実行するためには入所者の健康状況や施設での生活状況を把握することが必要であり、入所スタッフには日中活動での利用者状況等の情報伝達が重要である。両施設が情報交流を深め連携を強めることで、利用者が安心して作業できる環境づくりにさらなる努力が期待される。

[このページの一番上へ](#)

コメント

事業所と評価に関する打合せを行い、日程調整を行った。特に利用者調査に関しては授産活動に支障をきたさないよう、時間帯や聞き取りに要する時間及び利用者の心身の状況等に応じて柔軟に対応することを基本に、聞き取り方式で行った。利用者に調査票の内容を見せもらい、感心や興味を持っている事柄や話題等を交えながら、利用者のペースに沿って行った。その他、食堂で利用者と昼食を共に摂るなどして意思疎通を図ることに努めた。尚、利用者調査を補完するため、家族にもアンケート調査を依頼した。

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成19年度評価結果
平成18年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 組織マネジメント分析結果

組織マネジメント分析結果

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼リーダーシップと意思決定

▼経営における社会的責任

▼利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

▼計画の策定と着実な実行

▼職員と組織の能力向上

▼情報の保護・共有

▼カテゴリー1～7に関する活動成果

平成17年度

知的障害者通所授産施設[経過措置]

次の評価結果を見る>>

事業所名称	未来工房にじ
評価機関名称	特定非営利活動法人 NPO人材開発機構
事業評価実施期間	2005年12月23日～2006年3月21日

リーダーシップと意思決定

1. 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	評点
1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している	A
2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	A
3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情をふまえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	A
【講評】詳細はこちら	
- にじの会は開所3年目をむかえる。試行錯誤をしながらも様々の部門で着実に実績をあげ... - 年4回6月、9月、12月、3月に入所施設、授産施設合同で家族連絡会の合同会議が開... - 社会福祉法人の役員、あり方を常に念頭において、非課税となっている社福法人とは何か...	
評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	

このページの一番上へ

経営における社会的責任

1. 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	評点
1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している	A
2. 第三者評価の導入・外部監査、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	A
3. 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている	A
2. 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている	評点
1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある	A
2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している	A
3. 地域との関係機関との連携を図っている	A
【講評】詳細はこちら	
- 法人より年4回発行の「にじの会だより」、にじの会後援会より発行の「にじ」、また毎... - 職員倫理綱領に、①生命の尊厳、②人権の擁護、③個人の尊重、④地域社会との関係、⑤... 「地域社会と福祉について語ろう」をテーマに平成18年1月9日第1回目の公開講座が...	
評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	

このページの一番上へ

利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

1. 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	評点
1. 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)	A
2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる	A
3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している	A+
【講評】詳細はこちら	
- 利用者一人ひとりが現在困っていること、意見、苦情、要望に対して施設は、利用者が何... - 利用者が何を望み何を考えているか利用者の意向を把握するため、第三者評価のアンケート... - 平成18年4月に障害者自立支援法施行にあたり、①施設として都市部でかなり不足して...	
評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	

このページの一番上へ

計画の策定と着実な実行

1. 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	評点
1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している	A ⁺
2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している	A
3. 着実な計画の実行に取り組んでいる	A
2. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	評点
1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	A
【講評】 詳細はこちら	
- 重度の障害者は地域の中でどのように暮らしていくか、非常に困難である。最近の国の入... - 言葉が話すことが出来ない、意思表示が出来ない利用者をどう受け止めるか、社会参加が... - 重度障害者の安全管理は十分な体制と整備が必要であるとして、年1回の全職員の安全大...	

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

職員と組織の能力向上

1. 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	評点
1. 事業所にとって必要な人材構成にしている	A
2. 職員の質の向上に取り組んでいる	A
2. 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる	評点
1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる	A
2. 職員のやる気向上に取り組んでいる	A ⁺
【講評】 詳細はこちら	
- 職員の育成・報酬・就業状況(疲労を蓄積させない・休息状況)等、職員の抱えている問... - このオープンな人事考課制度実施により、管理職の器量が問題としてクローズアップされ... - スタッフ研修と支援の向上のため、研修の機会を保障し、専門的知識向上を図っていくた...	

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

情報の保護・共有

1. 情報の保護・共有に取り組んでいる	評点
1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	A
2. 個人情報は、「個人情報保護法」の趣旨をふまえて保護・共有している	A
【講評】 詳細はこちら	
- にじの会は利用者・家族の個人情報を適切に取り扱うことが不可欠であると考え、個人情報... 『施設内掲示や各種機関紙への利用者の名前及び写真の掲示・掲載について』いう通知を...	

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

カテゴリー1～7に関する活動成果

1. 前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	評点
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A ⁺
【改善の成果】 詳細はこちら	
知的障害者の地域生活の支援等に基づき、重度障害者の意思、思い、ニーズをどのように...	
2. 前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	評点
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A
【改善の成果】 詳細はこちら	
職員の育成・報酬・就業状況等、職員の抱えている問題を把握するために人事考課を年2...	
3. 前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	評点
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A
【改善の成果】 詳細はこちら	
施設での業務の標準化を図る取り組みとしては、月2回、マニュアル化委員会において、...	
4. 前年度と比べ、事業所の財政面において向上している	評点

1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している	A
【改善の成果】 詳細はこちら 授産収入は、総額においても一人あたりの工賃においても、パン製造や豆腐製造販売など...	
5. 前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している	評点
1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している	A
【改善の成果】 詳細はこちら 利用者一人ひとりが現在困っていること、意見、苦情、要望に対して施設は、利用者が何...	
【講評】 詳細はこちら - 知的障害者の地域生活の支援等に基づき、重度障害者の意思、思い、ニーズをどのように... - 職員の育成・報酬・就業状況等、職員の抱えている問題を把握するために人事考課を年2... - 利用者一人ひとりが現在困っていること、意見、苦情、要望に対して施設は、利用者が何...	評点の内容 ▶ 詳細はこちらから

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

他年度の評価結果

[平成20年度評価結果](#)

[平成19年度評価結果](#)

[平成18年度評価結果](#)

[福祉サービス第三者評価情報](#)
>
[評価結果検索](#)
>
[評価結果一覧](#)
>
サービス分析結果



サービス分析結果

▼サービス提供のプロセス項目

▼サービスの実施項目



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

平成17年度

知的障害者通所授産施設[経過措置]

[次の評価結果を見る>>](#)

事業所名称	未来工房にじ
評価機関名称	特定非営利活動法人 NPO人材開発機構
事業評価実施期間	2005年12月23日～2006年3月21日

サービス提供のプロセス項目

サービス情報の提供	評点
1. 利用者等に対してサービスの情報を提供している	A
【講評】詳細はこちら - 利用者が施設の情報を得る方法としては、併設されている知的障害者入所更生施設「大沢... - 行政や関係機関等への法人・施設の情報提供は、「にじの会だより」「未来工房にじ便り... - 利用者・保護者や養護学校などからの見学・問い合わせについては、随時受け付け対応が...	評点の内容 ▶ 詳細はこちらから
サービスの開始・終了時の対応	評点
1. サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている	A ⁺
2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している	A
【講評】詳細はこちら - 利用者、施設との契約に関しては全利用者が「成年後見制度」を利用し、施設利用に關す... - 利用者へのサービスの提供開始にあたっては、本人・家族と面談を行い、内容を記録し、... - 利用開始直後には利用者の居場所作りのための支援から始める。最初は半日施設で過ごし...	評点の内容 ▶ 詳細はこちらから
個別状況の把握・記録	評点
1. 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している	A
2. 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している	A
3. 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している	A
4. 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している	A ⁺
【講評】詳細はこちら - 利用者の支援計画策定に関しては利用者のニーズや要望・希望を尊重しながら、本人・家... - 利用者一人ひとりに関する記録については、今年度の事業計画書や組織規定に、各業務ご... - 策定された利用者の個別支援計画書やその他の記録は個人ファイルに保存され、所定の場...	評点の内容 ▶ 詳細はこちらから
プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	評点
1. 利用者のプライバシー保護を徹底している	A
2. サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している	A
【講評】詳細はこちら - 利用者のプライバシー保護に関してはマニュアル化委員会で作成され、今年度開催された... - 利用者のプライバシーの確保に関しては、職員間での利用者の情報を交換する場合には、... - 利用者の権利や個人の意思の尊重に関しては、「本人の意思で障害者になったわけではな...	評点の内容 ▶ 詳細はこちらから
事業所業務の標準化	評点
1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	A ⁺
2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	A
3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している	A
【講評】詳細はこちら - 施設での業務の標準化を図る取り組みとしては、月2回、マニュアル化委員会において、... - 職員の利用者に対する、サービス提供の均一化を図るための基となるツールとして作成さ... - 利用者へのサービスの向上のため、職員の一定レベルの知識や技術を学ぶための研修に積...	評点の内容 ▶ 詳細はこちらから

サービスの実施項目

サービスの実施	評点
1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している	A ⁺
【講評】 詳細はこちら - 社会福祉法人にじの会として、同じ建物で入所更生施設と通所授産施設を開設している。 - 日々の日中活動支援は個別支援計画により行われ、利用者の特性に応じてコミュニケーション... - 利用者の作業は安全に注意しながら行い、作業終了後1日の作業の内容や連絡として「帰...	
2. 個別の支援計画に基づいて就労・日中活動等に関するさまざまな支援を行っている	A
【講評】 詳細はこちら - 個別の支援計画に基づき、利用者や保護者の希望・意見を聞いて個々の支援を決めている... - 日中活動の就労の作業工賃は作業工賃支払規定により明確にされており、作業に参加した... - 全部で9種ある作業に本人の希望や特性を生かしたつもりでも、実際に作業すると合わな...	
3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している	A
【講評】 詳細はこちら - 日々の食材は無農薬野菜を使用し、利用者の栄養バランスを考えたメニューの提供をして... - 食堂は入所、通所利用者共用なので、昼食時はグループに分けたり、時間差を設けたり工... - 厨房業務は業者委託で行っており、施設の栄養士が献立表を作成している。職員の検食、...	
4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている	A
【講評】 詳細はこちら - 利用者の家庭での様子や健康状態などは連絡帳で確認している。日中活動を行う時には利... - 毎月実施される安全委員会では、安全活動の月間目標を定めて、安全への意識付けとキャ... - 日常生活で自立に必要な動作が出来るように各種マニュアルが支援ツールとして準備され...	
5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている	A
【講評】 詳細はこちら - 医療機関(近隣の大学、嘱託医3名)との連携は良く取れており、2名の看護師と嘱託医... - 日々の服薬管理は看護師が行い、昼食支援の際に与薬担当スタッフが配薬し、飲んだこと... - 利用者の心身の健康増進を目的とした「運動」、「音楽」プログラムを専任スタッフによ...	
6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている	A
【講評】 詳細はこちら - 設計の段階で障害者を持つ親が携わり、採光、照明、換気、段差、廊下の広さ、間取り、... - 朝の会、帰りの会、毎月の利用者会議で問題点を話し合ったり、約束事を確認している。...	
7. 施設と家族等との交流・連携を図っている	A
【講評】 詳細はこちら - 保護者等との交流、懇談、相談等は入所をはじめ、制度の変更や施設の事業計画の公表、... 3ヶ月ごとに実施される施設家族連絡会において、写真やビデオを使って日中活動の様子... 7月末の夏祭り、11月のにじの会祭り、12月のクリスマス会、1月の成人式、2月の...	
8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている	A
【講評】 詳細はこちら - 開設以来、地域への協力、各種行事には積極的に参加し、三鷹市、調布市住民との交流に... - 施設に併設されたお洒落なショップ「オー・ソレ・ミオ」では、授産で生産されたパンや...	
評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	

[このページの一歩上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評価結果詳細

他年度の評価結果

平成20年度評価結果

平成19年度評価結果

平成18年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 利用者調査結果

利用者調査結果

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼調査概要 ▼調査結果全体のコメント ▼調査結果

平成17年度

知的障害者通所授産施設【経過措置】

次の評価結果を見る>>

事業所名称	未来工房にじ
評価機関名称	特定非営利活動法人 NPO人材開発機構
利用者調査実施期間	2005年12月23日～2006年2月3日

調査概要

- **調査対象:** 利用定員23人全員を対象に行うことを基本としながらも、当日の心身の状態に応じて柔軟に対応することとして、事業所とその都度連携する中で、聞き取り方式で行った。
- **調査方法:** 1日の日程で、評価者が利用者と1対1で、感心や興味を持っている事柄や話題等を交えながら、自然に話が出るような雰囲気づくりに心がけ、利用者のペースに沿って行った。
- 利用者総数: 23人
- 共通評価項目による調査対象者数: 23人
- 共通評価項目による調査の有効回答者数: 13人
- 利用者総数に対する回答者割合(%) : 56.5%
- 調査項目 : [共通評価項目](#)

[このページの一番上へ](#)

調査結果全体のコメント

利用者調査に関しては日常生活や授産活動に支障をきたさないよう、時間帯や聞き取りに要する時間及び利用者の心身の状態等に応じて柔軟に対応することを基本に、聞き取り方式で行った。利用者に調査票の内容を見てもらい、感心や興味を持っている事柄や話題等を交えながら、利用者のペースに沿って行った。尚利用者調査を補完するため家族にもアンケート調査を依頼した。調査結果は、利用者定員23人中、有効回答数13人(56.57%)であり、16項目の設問中、8割を超える方が「はい」とした項目は10項目。なかでも「食事はおいしいですか」、「仕事や活動は楽しいですか」、「職員は同じように対応してくれますか」など4項目は全員が「はい」と意志表示している。一方で「困ったことを、外の人にも相談できますか」は、「はい」が凡そ6割弱で、凡そ4割の方が「無回答」等で、当該設問の意味合いを理解することが難しく、且つ感心も薄いように見受けられた。その他、家族アンケート(有効回答数9人)で施設に対する満足度は、凡そ9割の方が満足との回答をしている。

[このページの一番上へ](#)

調査結果

1.施設の中は安全に動けるようになっていますか

はい	12人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
9割の方が「はい」と意志表示しており、「危ないところはよけて通る」、「ジャムを作っている、仕事で危ないと思ったことはない」との声が聞かれるように、屋内のパン工房など作業場は広く、整頓された什器備品を備えた環境となっている。

2.食事はおいしいですか

はい	13人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
「揚げ物が好き」、「家の食事より美味しい、パンが好き、ハンバーグが好き」、「家よりこの食事が美味しい、グラタンが好き」、「パエリアが好き、クリスマス料理もあって美味しい」、「食事はとても美味しい」との声が聞かれた。

3.仕事や活動は楽しいですか

はい	13人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
「紙工房の仕事をしている、絵を描くのが好き」、「ジャム作りをしている、りんご、梅ジャムなど、りんごジャムは簡単」、「パン工房で働いている、ハムチーズ、バジルチーズ」、「さつまいもパン作りが得意」、「園芸作業、チューリップが咲いた、水やりなど、掃除もしている」、「清掃と園芸をしている、水やりや肥料をやっている、外の清掃が好きだから」との声が聞かれるように、全員が楽しく作業をしている様子が伺える。

4.職員はみんな同じようにあなたに対応してくれますか

はい	13人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
全員が「はい」と意志表示しており、「親切に教えてくれる」、「沢山親切な職員がいる」との声が聞かれるように、職員は利用者に対して分け隔てなく対応していることが伺える。

5.職員は、丁寧(乱暴な言葉を使ったり、命令したり、呼び捨てにしない)に接してくれますか

はい	11人	どちらともいえない	0人	いいえ	2人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
「乱暴な人は誰もいない」、「職員はとても親切」、「乱暴に言われたりすると辛い」、「昔はいたが今はいない」などの声が聞かれた。

6.あなたの気持ちをわかってくれる(相談できる)職員がいますか

はい	11人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	2人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
「加工の職員」、「沢山の職員」、「あこがれている職員もいる」、「職員が相談にのってくれる」などの声が聞かれるように、職員は利用者の気持ちを汲み取って対応している様子が伺える。

7.あなたが困ったとき、施設の職員は助けてくれますか

はい	12人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
「皆助けてくれるけど、今は困ってない」、「困ったことはない、職員に言えばやってくれる」、「困ったことはない、困った時は職員が助けてくれる」との声が聞かれた。

8.困ったことを外の人(第三者委員など)にも相談できますか

はい	7人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	5人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
「養護学校の先生や両親に相談している」、「養護学校の先生が来てくれる」、「施設の中で相談できる、職員や友達に相談している」などの声が聞かれたものの、凡そ4割の方が「無回答」等で、当該設問の意味合いを理解することが難しく、且つ感心も薄いように見受けられた。

9.工賃・給料の支払いのしくみは、わかりやすく説明されていますか

はい	9人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	4人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
「工賃で洋服などを買っている」、「給料でCDや雑誌を買っている」、「給料、ボーナスももらった、きちんと説明してもらっている」との声が聞かれたが、特に意志表示を見せなかった方もあった。

10.施設に、あなたが来る事を喜んでくれる仲間がいますか

はい	13人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
全員が「はい」の意志表示をしており、「たくさんいる」と言ったようなコメントであり、施設に通ってきて皆と工房での作業や園芸作業をすることを楽しんでいる様子が伺える。

11.あなたの目標・計画について、いっしょに考えわかりやすく説明してくれましたか

はい	8人	どちらともいえない	0人	いいえ	2人	無回答・非該当	3人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
「外出が好きなのであちこち見て回る」、「自分のことは自分でするようにすればいいと思う、将来はアイドルのように歌や踊りを踊りたいと思っている」、「会社に戻りたい」、「ジャムづくりを続けていきたい」などの声が聞かれた。

12.【過去1年以内に利用を開始したと答えた方に】利用する前に、施設での生活や支援内容など、知りたいことについてわかりやすい説明がありましたか

はい	0人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

13.【過去1年以内に利用を開始したと答えた方に】施設のサービスなどの考え方を知る機会(説明、掲示など)がありましたか

はい	0人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

14.【過去1年以内に利用を開始したと答えた方に】施設の説明を聞いて、自分で施設を利用することを決めましたか

はい	0人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

15.あなたは不満や要望を職員に気軽に話すことができますか

はい	11人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
「アンパンの作り方を話す」、「やめなければならないことを話している」、「ショートステイの予約をしてくれた」との声が聞かれ、特に不満や要望などはないように見受けられる。

16.職員は不満や要望に対してきちんと対応してくれていますか

はい	11人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
「きちんと対応してくれる」、「つくり方を教えてくれた」などの声が聞かれるように、凡そ8割を超える方が不満や要望と言うことに限らず職員はきちんと対応してくれるとの意志表示をしている。

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成19年度評価結果
平成18年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > リーダーシップと意思決定

 リーダーシップと意思決定

 利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

にじの会は開所3年目をむかえる。試行錯誤をしながらも様々の部門で着実に実績をあげてきている。知的障害授産施設「未来工房にじ」は、事業重点課題として、①利用者の安全を確保した上で快適な生活の提供と自立への支援を行う、②地域障害者福祉事業の展開を制度変換を踏まえて実行する、③制度変更に対し、各施設・事業所の経営基盤を確立する、④職員の教育研修を進め、支援能力と経営意識の向上を図る、⑤地域との交流を強化し、特に障害者への理解をひろげていく等の信念に基づき事業運営をしている。

年4回6月、9月、12月、3月に入所施設、授産施設合同で家族連絡会の合同会議が開催されている。両施設合わせて約80人～90人の参加がある。これは家族会の約90％にあたる。9時30分～11時40分の間タイムスケジュールに基づき、施設としての方針(目標・行事)、今後の予定などが討議される。全体会の後、各施設に分かれ移行説明会が1時間ほど行われる。家族も施設を理解し、施設の運営方針の共有化が計られる。

社会福祉法人の役目、あり方を常に念頭ににおいて、非課税となっている社福法人とは何か、どのような役割を果たすべきかを職員に一貫して説いている。「利用者が主体であり、職員が主体ではない」「法人は結果責任であり、会議で検討した事は責任を持ち実行することであり、夢物語ではなく、未達成のときはなぜ出来なかったか、計画を見直し検討する」と仕事の取り組み姿勢を職員に周知、共有している。

[このページの一番上へ](#)

1-1-1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している

評点	A
標準項目	☐ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している
	☐ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	☐ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	☐ 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)
A+の取り組み	

1-1-2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている

評点	A
標準項目	☐ 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている
	☐ 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している
A+の取り組み	

1-1-3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情をふまえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点	A
標準項目	☐ 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている
	☐ 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
	☐ 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評価の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成19年度評価結果
平成18年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 経営における社会的責任

経営における社会的責任

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

法人より年4回発行の「にじの会だより」、にじの会後援会より発行の「にじ」、また毎月末発行の「スタッフ通信」と各分野に施設の内容、行事、方針などを配布するとともに屋外掲示板を設置し、地域の人たちにも施設の内容、行事などが掲示されている。施設の重点課題のひとつである地域との交流を強化し、特に障害者への理解をひろげていく考えに沿ったものである。又、法人のホームページには「未来工房にじ」の授産内容など分かりやすく紹介している。

職員倫理綱領に、①生命の尊厳、②人権の擁護、③個人の尊重、④地域社会との関係、⑤専門的の支援などが明示されている。利用者個々のニーズに対応する支援を実施するという理念・方針に基づき利用者に安定した生活を提供するため、コミュニケーションの取りにくい利用者の支援方法として、絵カード、サインなど視覚的アプローチを全施設で取組んでいる。言語療法師の講義を受け、重度利用者のコミュニケーションをどの様に進めていくか、職員一人ひとりが知的障害者の専門的な知識をもてるように自己研修に取り組んでいる。

「地域社会と福祉について語ろう」をテーマに平成18年1月9日第1回目の公開講座がにじの会で行われた。地域福祉のあり方を考えるということで当法人の監事でもある福祉専門大学教授の講義があり、その後、障害のある人たちの発言、意見発表、参加者による意見交換が約3時間ほど行われた。障害のある当事者3名からの発言などあり、地域の中で障害のある人が暮らしていくにはどのような問題点があるかなど、意見交流を行った。地域の方も含め約50人ほどの参加があり有意義な1日であった。

[このページの一番上へ](#)

2-1-1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している

評点	A
標準項目	福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している
	全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる
A+の取り組み	

2-1-2. 第三者評価の導入・外部監査、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている

評点	A
標準項目	第三者評価・外部監査の実施など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる
	透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している
A+の取り組み	

2-1-3. 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている

評点	A
標準項目	実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている
	効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している
A+の取り組み	

2-2-1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある

評点	A
標準項目	事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)
	地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている
A+の取り組み	

2-2-2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点	A
標準項目	ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している
	ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)
	ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている
A+の取り組み	

2-2-3. 地域の関係機関との連携を図っている

評点	A	
標準項目	○	地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している
	○	地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評価の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成19年度評価結果
平成18年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

利用者一人ひとりが現在困っていること、意見、苦情、要望に対して施設は、利用者が何を望み何を思っているか、いちはやく取り入れ、解決していくという対策をとっている。月1回第二水曜日には「いろいろ相談室」を開いている。受付は午後3時30分から5時頃まで行っている。職員3名が対応しており、毎月10人程度の利用者が不安に思っていること、話をしたいこと、話を聞いてほしい人などいろいろと相談に来ている。職員はその相談に対し適切に対応している。

利用者が何を望み何を考えているか利用者の意向を把握するため、第三者評価のアンケート、個別支援計画のアンケート、食事アンケートなどに取り組んでいる。食事アンケートは献立委員会をつくり年1回、2月に開催している。業者との業務委託の変更、栄養管理、メニューの内容などについては利用者、職員よりアンケートをとってバランスのよい食事を提供しようとしている。アンケートでは改善の結果、味がよくなったとの回答や5%の麦を入れた事により便通がよくなったなどの結果もでている。

平成18年4月に障害者自立支援法施行にあたり、①施設として都市部でかなり不足しているグループホーム、②障害者に必要な日中活動の場、③自立支援法の特徴である就労活動、④地域生活ホームの確保など、地域需要に応える事業展開を進めていく必要がある。重度グループホームは全都で240人分しか設置できておらず重度の人の生活の場は全く欠乏した状況である。このような地域福祉ニーズに対応すべく、三鷹市内に初の知的障害者グループホーム、ケアホーム及び未来工房にじアートを開設した。

[このページの一番上へ](#)

3-1-1. 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)

評点	A
標準項目	 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている
	 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる
A+の取り組み	

3-1-2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる

評点	A
標準項目	 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる
	 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している
	 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる
A+の取り組み	

3-1-3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点	A+
標準項目	 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる
	 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる
	 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している
A+の取り組み	平成18年4月に障害者自立支援法施行にあたり、①施設として都市部でかなり不足しているグループホーム、②障害者に必要な日中活動の場、③自立支援法の特徴である就労活動、④地域生活ホームの確保など、地域需要に応える事業展開を進めていく必要がある。重度グループホームは全都で240人分しか設置できておらず重度の人の生活の場は全く欠乏した状況である。このような地域福祉ニーズに対応すべく、三鷹市内に初の知的障害者グループホーム、ケアホーム及び未来工房にじアートを開設した。

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評価の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成19年度評価結果
平成18年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 計画の策定と着実な実行

 計画の策定と着実な実行

 利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

重度の障害者は地域の中でどのように暮らしていくか、非常に困難である。最近の国の入所施設否定論に対して施設は屈していないという強い姿勢で取り組んでいる。重度の障害者も地域の中で生活していくには、入所施設がサポートし、ケアハウスと重度利用者向け日中活動施設が連動したサービス展開が必要との構想で、現在の環境、自立支援法の特徴を分析した上で3～5年というスタンスで中期の事業展開をしている。2月1日、「未来工房にじ分場」「グループホームレインボー」「ケアホームにじ」が開所された。

言葉を話すことが出来ない、意思表示が出来ない利用者をどう受け止めるか、社会参加が困難な重度障害者に対しどのようにアプローチしていくのかというプロジェクトに取り組んでいる。日常生活の支援を工夫する手法として、絵、サイン、絵文字、写真など視覚に視覚的アプローチを全施設で展開し、重度利用者とのコミュニケーション能力の向上を図っている。顔写真により今日の出勤職員が理解できたり、洗面所に歯磨きの順序が絵で示されていたり、視覚で理解することにより、日常生活の自立支援を推進中である。

重度障害者の安全管理は十分な体制と整備が必要であるとして、年1回の全職員の安全大会を実施、安全委員会のスタッフによる危険場所、不潔場所の巡回点検の実施を行っている。平成17年3月に避難訓練を実施し、10月には避難訓練と同時に地元の消防署の協力を得て救急救命法を実施した。事故報告、ヒヤリハットなどを参考に事故予防の再確認を行い、再発防止策につとめている。

[このページの一番上へ](#)

4-1-1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している

評点	A+
標準項目	 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している
	 年度単位の計画を策定している
	 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる
A+の取り組み	知的障害者の地域生活の支援等に際して、重度障害者の意思、思い、ニーズをどのように把握していくかということについて、コミュニケーション能力向上を重点的に中・長期にわたりプロジェクトを組んで推進している。また、施設としては環境と事業の特徴を分析して3か年計画を進めてきたが、国の施策の脱入所更生施設とは相反するものがある。障害者は地域の中で生活するためにはグループホームで生活の場を築き、入所施設でサポートする必要があるとの視野にたって中長期計画を策定している。

4-1-2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している

評点	A
標準項目	 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている
	 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている
	 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)をふまえて策定している
	 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)をふまえて策定している
A+の取り組み	

4-1-3. 着実な計画の実行に取り組んでいる

評点	A
標準項目	 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している
	 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなどの取り組みを行っている
	 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している
	 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる
A+の取り組み	

4-2-1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点	A
標準項目	 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している
	 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している
	 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている
A+の取り組み	

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評価の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成19年度評価結果
平成18年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 職員と組織の能力向上



職員と組織の能力向上



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

職員の育成・報酬・就業状況(疲労を蓄積させない・休息状況)等、職員の抱えている問題を把握するために職員一人ひとりが人事考課を年2回、自己申告を年1回行っている。仕事に対しての自己評価のための基準評価表があり、自己評価と考課者の間で評価が食い違った場合は、上司評価は当人にもオープンにされ、二次考査として調整をはかることができる。自己申告の際には面接を希望する上司を選ぶことができるという斬新な評価制度を取っている。

このオープンな人事考課制度実施により、管理職の器量が問題としてクローズアップされた。現場の職員が利用者にとどのように支援をしているか把握し、見極めることは現場運営のキーパーソンである管理者の役割である。主任が、他人を評価するという事は、主任がしっかりとした考えを持たなければならない。この新人事考課制度が管理職の成長につながるものと期待される。

スタッフ研修と支援の向上のため、研修の機会を保障し、専門的知識向上を図っていくために、勤務体制を工夫し、研修参加の機会を増やしている。スタッフに対しては働きやすく、仕事に対して各自がテーマを持つて、知的障害者の専門的な知識がもてるように、自己研修・階層別研修に取り組んでいける状況を作っている。外部研修(階層別研修参加、マニュアル化研修等)、内部研修(安全管理、第三者評価など)、個人目標を明確にして研修計画を策定している。

[このページの一番上へ](#)

5-1-1. 事業所にとって必要な人材構成にしている

評点	A
標準項目	☐ 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している
	☐ 事業所が必要とする人材をふまえた採用を行っている
	☐ 適材適所の人員配置に取り組んでいる
A+の取り組み	

5-1-2. 職員の質の向上に取り組んでいる

評点	A
標準項目	☐ 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している
	☐ 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している
	☐ 個人別の育成(研修)計画をふまえ、OJTや研修を行っている
	☐ 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している
	☐ 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している
A+の取り組み	

5-2-1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点	A
標準項目	☐ 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している
	☐ 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる
	☐ 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる
A+の取り組み	

5-2-2. 職員のやる気向上に取り組んでいる

評点	A+
標準項目	☐ 事業所の特性をふまえ、職員の育成・評価・報酬(賃金・昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている
	☐ 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる
	☐ 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる
	☐ 福利厚生制度の充実に取り組んでいる
A+の取り組み	職員の育成・報酬・就業状況等、職員の抱えている問題を把握するために人事考課を年2回、自己申告を年1回行っている。仕事に対しての自己評価のための基準評価表があり、自己評価と考課者の間で評価が食い違った場合は、上司評価は当人にもオープンにされ、二次考査として調整をはかることができる。自己申告の際には面接を希望する上司を選ぶことができるという斬新な制度を取っている。このオープンな人事考課制度実施により、管理職の器量が問題としてクローズアップされた。この制度が管理職の成長につながるものと期待される。

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

他年度の評価結果

[平成20年度評価結果](#)

[平成19年度評価結果](#)

[平成18年度評価結果](#)

福祉サービス第三者評価情報 > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > 情報の保護・共有



情報の保護・共有



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

にじの会は利用者・家族の個人情報適切に取り扱うことが不可欠であると考え、個人情報に関する法律やガイドラインを遵守するために「個人情報保護に関する基本方針」を、①個人情報の取得・利用、②個人情報の第三者提供、③情報の安全管理について、④個人情報保護に関する法令や規範の遵守、⑤個人情報の継続的改善など5項目を定めた。にじの会は、利用者、家族から提供された個人情報をも目的以外に使用しないために「利用者の個人情報の利用目的の通知及び第三者に対する提供に関する同意書」を作成している。

『施設内掲示や各種機関紙への利用者の名前及び写真の掲示・掲載について』いう通知を出し、利用者の名前や顔写真は大切なプライバシーで勝手に掲載しないこと明記している。行事などの写真掲示は施設内のみ、機関紙の掲載は4機関紙に限定して掲載すること、利用者及び家族の同意または不同意を確認し同意書を求めている。この範囲外についてはその都度承認をもとめることとしている。

[このページの一番上へ](#)

7-1-1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる

評点	A	
標準項目		情報の重要性や機密性をふまえ、アクセス権限を設定している
		収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している
		保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している
A+の取り組み		

7-1-2. 個人情報は、「個人情報保護法」の趣旨をふまえて保護・共有している

評点	A	
標準項目		事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している
		個人情報の保護に関する規定を明示している
		開示請求に対する対応方法を明示している
		個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

講評

知的障害者の地域生活の支援等に基づき、重度障害者の意思、思い、ニーズをどのように把握していくか、コミュニケーション能力向上を重点的に中・長期にわたリプロジェクトを組んで推進している。また、施設としては長期的視野に立ち、環境と事業の特徴を分析して3カ年計画を進めてきたが、国の施策の脱入所更生施設とは相反するものがある。障害者は地域の中で生活するためにはグループホームで生活の場を築き、入所施設がサポートする必要があるとの中長期的視野にたって今年度グループホーム、ケアホームを開設した。

職員の育成・報酬・就業状況等、職員の抱えている問題を把握するために人事考課を年2回、自己申告を年1回行っている。仕事に対しての自己評価のための基準評価表があり、自己評価と考課者の間で評価が食い違った場合は、上司評価は当人にもオープンにされ、二次考査として調整をはかることができる。自己申告の際には面接を希望する上司を選ぶことができるという斬新な制度を取っている。このオープンな人事考課制度実施により、管理職の器量が問題としてクローズアップされた。この制度が管理職の成長につながるものと期待される。

利用者一人ひとりが現在困っていること、意見、苦情、要望に対して施設は、利用者が何を望み何を思っているか、いちちはやく取り入れ、解決していくという対策をとっている。月1回第2水曜日には「いろいろ相談室」を開いている。受付は午後3時30分から5時頃まで行っている。職員3名が対応しており、毎月10人程度の利用者が不安に思っていること、話をしたいこと、話を聞いてほしい人などいろいろと相談に来ている。職員はその相談にに対し適切に対応している。

[このページの一覧上へ](#)

8-1-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」
- ・カテゴリー2:「経営における社会的責任」
- ・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」

評価	A⁺
改善の成果	知的障害者の地域生活の支援等に基づき、重度障害者の意思、思い、ニーズをどのように把握していくか、コミュニケーション能力向上と重点的に中・長期にわたってプロジェクトを組んで推進している。また、施設としては長期的視野に立ち、環境と事業の特徴を分析して3カ年計画を進めてきたが、国の施策の脱入所更生施設とは相反するものがある。障害者は地域の中で生活するためにはグループホームで生活の場を築き、入所施設がサポートする必要があるとの中長期的視野にたって今年度グループホーム、ケアホームを開設した。

[このページの一番上へ](#)

8-2-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」

評価	A
改善の成果	職員の育成・報酬・就業状況等、職員の抱えている問題を把握するために人事考課を年2回、自己申告を年1回行っている。仕事に対しての自己評価のための基準評価表があり、自己評価と考課者の間で評価が食い違った場合は、上司評価は本人にもオープンにされ、二次考査として調整をはかることができる。自己申告の際には面接を希望する上司を選ぶことができるという斬新な制度を取っている。このオープンな人事考課制度実施により、管理職の器量が問題としてクローズアップされた。この制度が管理職の成長につながるものと期待される。

[このページの一番上へ](#)

8-3-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」
- ・カテゴリー7:「情報の保護・共有」

評点	A
改善の成果	施設での業務の標準化を図る取り組みとしては、月2回、マニュアル化委員会において、諸問題の検討や必要に応じて修正をしている。新任の職員にマニュアル通り利用者への支援等を行ってもらい、実践できたか、不備は無かったか、理解できたか、使いやすかったかなど、マニュアルの適正や不具合を評価してもらい、必要に応じて修正を行い、マニュアルの適正化を図っている。

[このページの一番上へ](#)

8-4-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している

評点	A
	授産収入は、総額においても一人あたりの工賃においても、パン製造や豆腐製造販売など自主生産事業を拡充することにより、

8-5-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している

・カテゴリ3:「利用者意識や地域・事業環境などの把握」

評点	A
改善の成果	利用者一人ひとりが現在困っていること、意見、苦情、要望に対して施設は、利用者が何を望み何を思っているか、いちはやく取り入れ、解決していくという対策をとっている。月1回第二水曜日には「いろいろ相談室」を開いている。受付は午後3時30分から5時頃まで行っている。職員3名が対応しており、毎月10人程度の利用者が不安に思っていること、話をしたいこと、話を聞いてほしい人などいろいろと相談に来ている。職員はその相談に対し適切に対応している。 近隣の方や障害者も参加して「地域福祉のあり方を考える」をテーマに公開講座を開催した。講座は「住み慣れた地域に障害者が働く場と生活する場を作りたい」という思いで、講演「地域福祉のあり方を考える」が行われ、障害のある人たちと健常者の意見交換が行われた。

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成19年度評価結果
平成18年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > サービス情報の提供

 サービス情報の提供

 利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

利用者が施設の情報を得る方法としては、併設されている知的障害者入所更生施設「大沢にじの里」を含めた法人作成の「ホームページ」、にじの会パンフレット、季刊発行の「にじの会だより」がある。当施設用専用に作成されたものには未来工房にじのパンフレットや月刊の「未来工房にじ便り」がある。情報の提供方法には法人・施設の運営方針・作業内容・行事などが、大きめの文字を使用し、写真・イラストを多く使用するなど、視覚からの情報が入手しやすいなどの配慮がされている。

行政や関係機関等への法人・施設の情報提供は、「にじの会だより」「未来工房にじ便り」などを各関係機関に配布したり、市との定例会「施設連絡会」などを通じて適宜情報を提供している。また、自治会・町会へは町内会の掲示板の利用や各たよりを配布したりしている。施設には、施設入口脇の大型掲示版や施設内の作業場（パン工房・豆腐工房・食品加工工房）の廊下に掲示している。ショップ「オー・ソレ・ミオ」の店内に便りを設置したり、近隣の方々へも情報の提供を行っている。

利用者・保護者や養護学校などからの見学・問い合わせについては、随時受け付け対応がなされている。昨年は進路相談として、養護学校から、1学年の見学者（4～5名）、2学年の体験実習者（5名）を2週間受入れ、利用者の入所時の不安やストレスの軽減、入所後の作業の適正や適切なサービス提供のための情報源とするなど、養護学校からの要望に沿う形で実施した。

[このページの一番上へ](#)

1-1. 利用者等に対してサービスの情報を提供している

評点	A
標準項目	 利用者が入手できる媒体で、利用者に事業所の情報を提供している
	 利用者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	 利用者の問い合わせや見学(可能な場合)の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評価の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成19年度評価結果
平成18年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > サービスの開始・終了時の対応

サービスの開始・終了時の対応

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

利用者、施設との契約に関しては全利用者が「成年後見制度」を利用し、施設利用に関する契約を成立させている。その他施設の基本的ルールやサービス提供の内容・利用者負担金などについては、重要事項説明書・重要事項説明書の補足説明を利用し行っている。また利用者・家族・後見人に説明がなされた際の意見や希望等を、施設所定の用紙に記録し、説明終了後に内容を確認・協議して、説明を受けたことの証として書面にて記名捺印するなど、誤解の生じないよう努めている。

利用者へのサービスの提供開始にあたっては、本人・家族と面談を行い、内容を記録し、個人ファイルにて管理している。また、ケースワーカーからの情報収集や必要に応じて養護学校、前施設と連絡を取り、引継ぎや直接担当者との面談を行うなど、利用者の特性を知り、利用者のサービス開始時の不安やストレスの軽減、利用開始前の生活をふまえた支援を行うための情報として活用している。退所支援に関しては、退所に至った理由を本人家族と面談し、ケースワーカーとの相談後、それらを集約・記録し、保存している。

利用開始直後には利用者の居場所作りのための支援から始める。最初は半日施設で過ごしていただき慣らし通所や仮の作業グループに所属してもらうなど、体験実習(1ヶ月)を実施している。また、写真やイラスト等を使用し視覚で理解をしてもらえるような環境作りも行っている。その他の取り組みとしては、職員が落ち着かなければ利用者も落ち着かなくなり、適切な支援ができないとの配慮から、アロマテラピーや音楽療法などを職員・利用者のために導入するなど、利用者のベースに合わせた支援への取り組みを行っている。

[このページの一番上へ](#)

2-1. サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている

評点	A ⁺
標準項目	サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を利用者の状況に応じて説明している
	サービス内容や利用者負担金等について、利用者の同意を得るようにしている
	サービスに関する説明の際に、利用者や家族等の意向を確認し、記録化している
A ⁺ の取り組み	・当施設利用に関しては、成年後見制度を利用するようご家族等に理解を求め、現在はすべての利用者が成年後見制度を利用し契約を結んでいる。

[このページの一番上へ](#)

2-2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点	A
標準項目	サービス開始時に、利用者の支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
	利用開始直後には、利用者の不安やストレスを軽減するよう配慮している
	サービス利用前の生活をふまえた支援をしている
	サービスの終了時には、利用者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている
A ⁺ の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評価の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成19年度評価結果
平成18年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 個別状況の把握・記録

個別状況の把握・記録

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

利用者の支援計画策定に関しては利用者のニーズや要望・希望を尊重しながら、本人・家族及び後見人から面談を通じて聞き取りを行い、フェイスシートに記入している。利用者全員に対してケース会議を開催し、アセスメントを行い、短期的な目標と長期的な目標が設定され、支援内容をアセスメントシートに記入して保存している。策定された個別支援計画書は、半年を経過した時期に必要なに応じて課題の修正や見直しを行っている。利用者が作業種の変更を希望したり、施設側が変更を進めるときは、1週間程度の体験実習を行った上で納得後に変更する。

利用者一人ひとりに関する記録については、今年度の事業計画書や組織規定に、各業務ごとに業務分掌が策定され、それらに沿って記録業務が遂行されている。業務分掌では、支援計画書の作成及び実施に関することや、記録・整備・保管・統計・調査・研究・作業評価などが取り決められている。職員は業務分掌に沿って、利用者の日中の活動記録を担当職員がパソコンに入力、管理職員が点検している。また、作業評価を毎月実施し、点数化して6ヶ月ごとに集計を行い、変化の様子を確認している。

策定された利用者の個別支援計画書やその他の記録は個人ファイルに保存され、所定の場所に保管し必要に応じて閲覧できるようにになっている。利用者の日々の生活の様子や変化などに関しては、毎朝10分程度行われている「朝会」にて情報の交換を口頭で行っている。また、健康上の変化に対しては記録され、職員間で共有の理解を得るために回覧板を使用している。一方で施設側では回覧板を読み、職員が十分な理解が得られているのか、読まなかったりする職員に対する対策が今後の課題と感じている。

[このページの一番上へ](#)

3-1. 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点	A	
標準項目	☐	利用者の身体状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している
	☐	利用者一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
	☐	アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

3-2. 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している

評点	A	
標準項目	☐	計画は、利用者の希望を尊重して作成、見直しをしている
	☐	計画を利用者にわかりやすく説明し、同意を得ている
	☐	計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている
	☐	計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

3-3. 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点	A	
標準項目	☐	利用者一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある
	☐	計画に沿った具体的な支援内容と、その結果利用者の状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

3-4. 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点	A+	
標準項目	☐	計画の内容や個人の記録を、関係する職員すべてが共有し、活用している
	☐	申し送り・引継ぎ等により、利用者に変化があった場合の情報を職員間で共有化している
	・利用者の支援計画策定に関しては利用者のニーズや要望・希望を尊重しながら、本人・家族及び後見人から面談を通じて聞き	

A+の取り組み

取りを行い、フェイスシートに記入している。利用者が作業種の変更を希望したり、施設側が変更を進めるときは、1週間程度の体験実習を行った上で納得後に変更する。

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成20年度評価結果

平成19年度評価結果

平成18年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重



プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

利用者のプライバシー保護に関してはマニュアル化委員会で作成され、今年度開催された家族会において、個人情報保護についての説明がなされた。個人情報保護に関する基本方針では、①個人情報の取得・利用、②個人情報の第三者への提供、③情報の安全管理について、④個人情報保護に関する法令や規範の遵守、⑤個人情報の継続的改善を掲げ、利用者の個人情報の利用目的や第三者への情報を提供する場合及び掲示や各種機関紙への名前・写真の掲示・掲載についての同意書を利用者・家族(後見人)全員と締結した。

利用者のプライバシーの確保に関しては、職員間での利用者の情報を交換する場合には、利用者の前では行わない事としている。利用者個人の記録はパソコン管理を行っているが、磁気媒体で外部には持ち出せないように配慮している。言葉によるコミュニケーションの取りにくい利用者には写真やカードなどを利用し、自分の意思を選択できるように配慮したり、職員が利用者の情報発信を読み取れる力をつけるように取り組んでいる。また、理事長は人権に関する講話を年3回必ず行うなどの取り組みがされている。

利用者の権利や個人の意思の尊重に関しては、「本人の意思で障害者になったわけではない、だから職員で支えよう。差別はしてはならない」を利用者支援の原則として取り組んでいる。施設では、利用者が安全で快適な生活が送れるよう、常に気を配る努力をしている。例えば、施設の建設に際しては他の施設の見学や障害者の親が設計にあたるなど、これまでの経験を生かし、廊下や介助に十分な広さのトイレなど、ゆったりとした造りで利用者へのプライバシー保護や居室外の居場所づくりなどを重視した設計となっている。

[このページの一番上へ](#)

5-1. 利用者のプライバシー保護を徹底している

評点	A	
標準項目		利用者について他機関へ照会する際、利用者の承諾を得るようにしている
		日常の支援の中で、利用者のプライバシーに配慮している
		利用者の羞恥心に配慮した支援を行っている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

5-2. サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している

評点	A	
標準項目		日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(利用者が「ノー」と言える機会を設けている)
		利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している
		虐待被害にあった利用者がある場合には、必要に応じて関係機関と連携しながら対応する体制を整えている
		利用者一人ひとりの価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評価の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成19年度評価結果
平成18年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 事業所業務の標準化

事業所業務の標準化

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

施設での業務の標準化を図る取り組みとしては、月2回、マニュアル化委員会において、諸問題の検討や必要に応じて修正をしている。作成された日中支援マニュアルには、業務のフローシート、業務作業手順が、昼食の支援方法や各作業・外出支援などが、各作業・グループ別に整備されている。内容は簡潔に分かりやすく作成されており、作業に対する留意点などを盛り込み作成されている。尚、各種マニュアルは職員室に常時保管されており、いつでも活用・閲覧できるようになっている。

職員の利用者に対する、サービス提供の均一化を図るための基となるツールとして作成されたマニュアルは、職員の共通理解が得られるようにしている。例えば、新任の職員にマニュアル通り利用者への支援等を行ってもらい、実践できたか、不備は無かったか、理解できたか、使いやすかったかなど、マニュアルの使いやすさや不具合を評価してもらい、必要に応じて修正を行い、マニュアルの適正化を図っている。また、職員の利用者に対するサービス提供の方法については、主任の配置や各グループにリーダーを配置するなど組織的に取り組んでいる。

利用者へのサービスの向上のため、職員の一定レベルの知識や技術を学ぶための研修に積極的に参加している。外部研修には、コミュニケーション支援方法やリスクマネジメント研修等に、内部研修へは安全管理、地域展開計画等に参加している。職員の階層別研修に関しては希望制ではなく、該当者に研修を業務として指示したり、研修に参加しなかった職員には、報告会研修を行っている。その他の取り組みとしては、利用者の安全確保のために、安全対策委員会が事故報告書を検討し、安全点検を行って再発防止に努めるなどの取り組みを行っている。

[このページの一番上へ](#)

6-1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点	A ⁺	
標準項目		手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている
		手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている
		提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している
		職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している
A ⁺ の取り組み	・施設での業務の標準化を図る取り組みとしては、月2回、マニュアル化委員会において、諸問題の検討や必要に応じて修正をしている。又、新任の職員にマニュアル通り利用者への支援等を行ってもらい、実践できたか、不備は無かったか、理解できたか、使いやすかったかなど、マニュアルの適正や不具合を評価してもらい、必要に応じて修正を行い、マニュアルの適正化を図っている。	

[このページの一番上へ](#)

6-2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点	A	
標準項目		提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている
		提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や利用者等からの意見や提案を反映するようにしている
		職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる
A ⁺ の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

6-3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点	A	
標準項目		打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている
		職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している
		職員全員が、利用者の安全性に配慮した支援ができるようにしている
		職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している
		職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている
A ⁺ の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

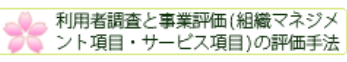
[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評価の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成19年度評価結果
平成18年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > サービスの実施

 サービスの実施



1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している

講 評

社会福祉法人にじの会として、同じ建物で入所更生施設と通所授産施設を開設している。授産施設「未来工房にじ」は併設の入所施設「大沢にじの里」の利用者との共用で利用している。日中活動は合同で行われ、パン工房、豆富(とおふ)工房、食品工房、手づくり工房、織工房、紙工房、園芸・清掃グループ、外作業グループ、洗濯たたみグループ、室内清掃グループの事業が利用者の適性に配慮して支援されている。未来工房にじの利用者支援マニュアルとして、日中支援マニュアルがフローチャートと作業手順書で示されている。

日々の日中活動支援は個別支援計画により行われ、利用者の特性に応じてコミュニケーションのとり方を工夫し、視覚的アプローチの方法として絵カードや写真、ジェスチャー等の視覚的な手段を使って利用者の理解に役立てている。日中活動は就労継続支援事業としていろいろな作業活動に取り組み、従事した作業工賃は作業工賃支払規定により配分されるシステムになっている。日々の日中活動日誌は個別支援計画と対応して記述され、個別支援計画の進捗状況を常に確認している。

利用者の作業は安全に注意しながら行い、作業終了後1日の作業の内容や連絡として「帰りの会」の時間を設け、日常生活の情報や地域の行事の連絡、またにじの会の出店がある時は、自主的に参加を促したりしている。また、利用者には個別に話し合う機会を設けたり、施設職員では伝えきれない情報や、通所途上での対人関係などを地域の警察官、消防署員、保健所の人に来所してもらい、社会人・成人としての意識、マナーを守ることや社会的常識を学ぶ機会を設けている。

評点	A ⁺	
標準項目		個別の支援計画に基づいて支援を行っている
		利用者の特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している
		自立生活に必要なさまざまな情報を提供している
		必要に応じて対人関係のアドバイス等を行っている
A+の取り組み	・住み慣れた地域に利用者の生活、日中活動の場を作りたいという願いのもとに、18年2月に開設したグループホームとケアホームへ13名の利用者が移り、新たな生活に取組んでいる。利用者への積極的な地域移行の支援として、就労活動の場として「未来工房にじアート」を開設、地域生活のホーム確保や地域需要に応える努力を進めている。また、三鷹市内最初のグループホームとして地域生活の拠点をづくり上げ、地域福祉の展開を図っている。	

[このページの一番上へ](#)

2. 個別の支援計画に基づいて就労・日中活動等に関するさまざまな支援を行っている

講 評

個別の支援計画に基づき、利用者や保護者の希望・意見を聞いて個々の支援を決めている。3ヶ月ごとの家族連絡会の際に行われる見学会や懇談会での意見、作業療法士の専門的意見等を参考に作業環境を整備したり、作業の向上に役立てている。また、音楽プログラム・運動プログラムを導入し健康維持に役立てている。同一の作業内容に従事している利用者には、さらに新しい作業を習得することを奨励することにより、複数の利用者が作業に挑戦し新たな作業能力を身につけた。

日中活動の就労の作業工賃は作業工賃支払規定により明確にされており、作業に参加した利用者に配分される。作業工賃の算定は8項目の作業評価表に基づき、賞与時に6ヶ月間の作業評価表を利用者に渡し、本人の意見を記入して返却してもらい確認しあっている。4月および10月に算定し、賞与として通所利用者には6月、12月に授産工賃として現金で、入所利用者には各利用者の預金口座に振込んでいる。

全部で9種ある作業に本人の希望や特性を生かしたつもりでも、実際に作業すると合わないこともある。「利用者を作業に合わせるのではなく、利用者に合った作業を探す」ために、体験実習を行いマッチングしている。それでもマッチしない場合は、新たな作業を作ることも検討している。利用者の司会による朝の会で各工房の作業内容や、努力目標を発表し、帰りの会では1日の総括を行い、お互いに励まし明日への活力につなげている。また、にじの会祭りで商品を販売等地域の人々との交流を通し仕事に対する責任や喜びを感じる機会を作っている。

評点	A	
標準項目		授産活動のメニュー等は、利用者の希望や特性により選択できるようにしている
		利用者が活動しやすい環境を整えている
		利用者一人ひとりのニーズに応じたその人らしさが発揮できる活動を用意している
		工賃は利用者との合意に基づいて支給している
		利用者の働く意欲を盛り立てる取り組みを行っている

		就労可能な利用者には、就労に向けた相談や具体的な支援を行っている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している

講 評

日々の食材は無農薬野菜を使用し、利用者の栄養バランスを考えたメニューの提供をしている。メニューは利用者が参加した食事調査等を行い、利用者や職員の声を取り入れ、献立会議でバラエティに富んだ飽きのこない食事を提供している。健康管理上食事に制限があり、また満腹感を保てない利用者等を考慮して選択メニューを取り入れていない。選択メニューは外出時に外食で取るなどの対応をしている。また、健康面への配慮、食べたいメニュー、新しいメニューなどの募集を募り、季節の食材、季節食を取り入れている。

食堂は入所、通所利用者共用なので、昼食時はグループに分けたり、時間差を設けたり工夫して少人数で食べるよう配慮し、集団での食事では落ち着けない利用者にはリビングでの対応を行い、できるだけ落ち着いた家庭的な雰囲気を大事にした食事提供に努めている。設計の段階から食堂の環境を重視し、採光、壁紙等を吟味し、テーブルは櫛材の注文家具でより良い環境整備を行った。

厨房業務は業者委託で行っており、施設の栄養士が献立表を作成している。職員の検食、感想、所見等を参考に献立に反映している。また利用者の栄養と健康に配慮して、生活習慣病予防の食事、6割食、きざみ食等の個別対応を行っている。肥満防止のためにこんにやく食品、麦飯、自然食品等の食材を使っている。献立のマナーリ化を防ぐための利用者から献立の募集を行い、旬の素材を取り入れた食事を提供している。又、誕生会メニューやバイキング等の行事食も実施している。

評点	A	
標準項目		利用者の希望や職員の意見を反映し、バラエティーに富んだ飽きのこない食事を提供している
		利用者の状態やベースに合わせて食事がとれるよう、必要な支援を行っている
		食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている

講 評

利用者の家庭での様子や健康状態などは連絡帳で確認している。日中活動を行う時には利用者の心と身体の状態に合わせて無理のない支援を行っている。特にパン工房や豆腐工房の授産活動に携わる利用者の健康管理、衛生管理、服装等には注意している。利用者の些細な健康上の変化についても、職員間で情報交換し、担当だけに任せずに全員でサポートしている。

毎月実施される安全委員会では、安全活動の月間目標を定めて、安全への意識付けとキャンペーンを実施している。また、毎月パン工房のオープン、鉄板、ミキサー、スライサーなど取り扱いの安全性についても点検し、利用者・職員に注意を促している。

日常生活で自立に必要な動作が出来るように各種マニュアルが支援ツールとして準備されている。また、利用者との関り方、コミュニケーション等に関し専門的な技術や工夫が必要なことも考え講習会の受講、勉強会などを開催して発語がない利用者へのコミュニケーション方法の研究等を行い支援の場に取り入れている。また、スタッフを頼りきってしまう利用者には、一歩先に課題を提示し、できたことに自信を持たせることで自立に向けた働きかけを行っている。将来は理学療法士や作業療法士の指導を受け、個々に応じた支援を考えている。

評点	A	
標準項目		利用者の状態やベースに合わせて、日常生活上の必要な支援を行っている
		必要に応じて、身の回りのことは自分で出来るよう働きかけている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている

講 評

医療機関（近隣の大学、嘱託医3名）との連携は良く取れており、2名の看護師と嘱託医（内科、精神科、歯科）により日常的な健康管理を行うとともに、大学病院等の協力医療機関による専門的診療体制を整えている。嘱託医による検診のほか、診察、相談を定期的に実施している。与薬マニュアル、症状別対応マニュアル、施設における感染症対策マニュアル等が作成されている。春、秋の年2回健康診断（レントゲン検査、内科検診）と年1回の歯科検診、3ヶ月に1回の体重測定を実施するとともに、インフルエンザ予防接種など集団感染防止に努めている。

日々の服薬管理は看護師が行い、昼食支援の際に与薬担当スタッフが配薬し、飲んだことを確認後、空袋を医務室に戻している。又、利用者の体調が急変した場合、速やかに協力医療機関に連絡するか利用者の指定する医療機関での診察を依頼している。尚、施設では発作による呼吸困難に対処するため医務室に吸引器や酸素吸入器を常設し、職員全員に取り扱いの研修を行っている。年1回の救急救命研修も実施している。

利用者の心身の健康増進を目的とした「運動」、「音楽」プログラムを専任スタッフによって積極的に実施している。

評点	A	
標準項目		健康状態に関して、利用者の相談に応じ、必要に応じて利用者や家族に説明をしている
		必要に応じて、通院や服薬等に対する助言や支援を行っている
		服薬管理は誤りがないようチェック体制を整えている
		利用者の体調変化（発作等の急変を含む）に速やかに対応できる体制を整えている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている

講 評

設計の段階で障害者を持つ親が携わり、採光、照明、換気、段差、廊下の広さ、間取り、トイレ・風呂場等に配慮を行って、安全で快適に過ごせる施設とした。利用者の屋内清掃グループは共用棟の廊下・階段、トイレなどの清掃を行い、職員の整備スタッフとともに施設全体を清潔に保っている。保健衛生に関して採光、換気等を測定した結果、大半が良好との評価を得た。

朝の会、帰りの会、毎月の利用者会議で問題点を話し合ったり、約束事を確認している。利用者会議では季節の行事等の企画・運営準備等を行っている。また、毎月第2火曜日午後3時半から5時までの時間に「いろいろ相談室」を設定して相談員3名で利用者の相談等に当たっている。毎回10名前後の相談がある。

評点	A	
標準項目		行事やレクリエーションのプログラムは、利用者の特性や嗜好を考慮し、多様な体験ができるようにしている
		室内は、採光、換気、清潔性など居心地のよい環境となるようにしている
		日常の生活に関するきまりごとについては、利用者等の意見を参考にして見直しをしている
		利用者同士が意見を言う機会があり、その意見等を施設運営に反映できるようしくみを整えている
		行事やイベントの企画・準備は利用者も参加して行っている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

7. 施設と家族等との交流・連携を図っている

講 評

保護者等との交流、懇談、相談等は入所をはじめ、制度の変更や施設の事業計画の公表、進捗状況の説明等を通して行われている。家族との連絡会を3ヶ月に1回（6月、9月、12月、3月）開催したり、家族への情報の提供、交流、連携を密接に行い利用者の近況や連絡事項を伝えている。また、授産状況などを毎月発行の「通所だより」、季刊「にじの会だより」を発行し、送付している。

3ヶ月ごとに実施される施設家族連絡会において、写真やビデオを使って日中活動の様子を伝えたり、行事や旅行の写真は注文に応じてプリントし、配布している。また、作業見学、懇親会で様子を伝え、保護者同士の交流もおこなっている。法人の後援会が、「にじの会後援会だより にじ」を発行している。利用者家族だけでなく多くの協力者が後援会に参加している。

7月末の夏祭り、11月のにじの会祭り、12月のクリスマス会、1月の成人式、2月のコンサート等がにぎやかに開催され、家族との交流会になっており、いずれもたくさんの参加で賑わっている。

評点	A	
標準項目		家族等との交流・連携に際して、利用者本人の意思を確認し、その意向に基づいた対応をしている
		利用者の日常の様子や施設の現況を家族等へ知らせる手段を整えている
		必要に応じて、家族等への情報提供や支援をしている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

講 評

開設以来、地域への協力、各種行事には積極的に参加し、三鷹市、調布市住民との交流に力を入れている。三鷹市知的障害者連絡会議などの情報は利用者、職員に伝え、大沢コミュニティーセンターの図書館・体育館、また近隣の都立養護学校のプールなどを活用し地域交流を深めている。また、近隣の方や障害者も参加する「地域福祉のあり方を考える」をテーマに公開講座を開催した。講座は「住み慣れた地域に障害者が働く場と生活する場を作りたい」という思いで、講演「地域福祉のあり方を考える」と障害のある人たちと健常者の

意見交換が行われた。

施設に併設されたお洒落なショップ「オー・ソレ・ミオ」では、授産で生産されたパンやジャム、豆腐などを販売するとともに、地域住民の憩いの場所として喫茶も開業している。ショップでは授産利用者も販売にあたり、地域住民との交流の場ともなっている。

評点	A	
標準項目	○	地域の情報を収集し、利用者の状況に応じて提供している
	○	必要に応じて、利用者が地域の資源を利用し、多様な体験ができるよう支援している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.